



(公社) 岐阜県理学療法士会 広報誌

<http://gifu-pt.jp/>

2022
No.143

らいちよう

ぎふ県理学療法士会 ぎふ2022



8月
27・28日



目次

巻頭言	会員の声	10
理学療法士の伸びしろ	賛助広告	13
各部・委員会からの報告	賛助会員	19

理学療法士の伸びしろ

～ 理学療法士の認知度の視点から ～

平成医療短期大学 リハビリテーション学科
理学療法専攻 田島 嘉人

私：「岐阜県理学療法士会です！」
通りがかりの人：「あっ、結構です」
私：「理学療法士ってご存じですか？」
通りがかりの人：「(逃げるように) 知りません」

あるモールにおける理学療法士会イベントでの、チラシを配るときの一コマです。私の印象ですが、7割8割の方が、そんなリアクションです（私の顔が“いかつい”せいもあるかもしれません）。

でも、この数年、県士会活動としては大きな変化があります。数年前までは、こちらから“お願い”してイベントを催すこともありましたが、ここ数年は、公的機関、民間企業などからイベントの“依頼を受ける”ことが大変多くなってきました。これも少しずつ理学療法士とその価値が認知されてきたからだと思えます。

改めまして、岐阜県理学療法士会の「職能局」に所属しております田島と申します。あまりなじみのない局ですので、簡単に紹介させていただきたいと思えます。

公益社団法人岐阜県理学療法士会の目的は、「理学療法士の人格、倫理及び学術技能を研鑽し、理学療法の普及向上を図るとともに県民医療・保健及び社会福祉の発展に寄与すること」です。職能局は、理学療法の知識や技術以外の仕事に関することを担う「診療報酬対策部」「障害福祉・介護保険対策部」「人材育成サポート部」と、“理学療法の普及向上”のところをメインに担う「メディカルサポート部」「地域職域連携推進部」で構成されています。ざっくりいえば、職能局は、理学療法の仕事を助けるための活動と、理学療法士の地位向上、職域拡大のための活動をする部署です。

日本では世界に類を見ない超高齢化社会を目前に控え、私たちが関わる「健康」という分野に多くの業種や職種が参入してきています。その競争の中で理学療法士が勝ち残るため（国家資格という圧倒的なアドバンテージはありますが、それに甘んじてると取り残されるような気がしてます）には、多くの方法がありますが、その一つとして、出来る限り多くの県民に理学療法士のことを知ってもらうことが、理学療法士の地位向上、ひいては個々の理学療法士の地位向上になると考えています。

職能局の県民の方向けの事業としては、現在、イオンモール各務原と共催の「モールウォーキング」、キッズタウンぎふ、民間企業（ダイハツ工業など）と市とのコラボによる講演会、マラソンやスポーツ大会におけるサポート事業などなどを行っています。（県士会各地域支部においても、様々な普及活動をしています）

冒頭のチラシ配りの現実のように、まだまだ理学療法士を知らない人は多く（前向きに捉えれば、「理学療法士地位向上の伸びしろが大きい！」ということ）、今後の課題は多いですが、チラシを受け取っていただけた方の中にはこんな声も結構ありました。

私：「理学療法士ってご存じですか？」
通りがかりの人：「私が病気をした時にすっごくお世話になりました！おかげで今こうやって買い物できてます！本当に素晴らしいお仕事ですね」



理学療法士の皆さんが、人知れず努力している成果を垣間見ました。先生方お一人お一人の日々のご活躍が理学療法士の地位向上に直結しています。本当にありがとうございます！

追伸：この場をお借りして、皆様にお願ひです。イベント数も増え、それに対応する人員が大変不足している現状です。岐阜県理学療法士会では、先月から県士会事業人材バンクの登録をお願いしています。ぜひ一度ご参加ください。

●県士会事業人材バンクの登録

※登録したら絶対参加しなくてはならないということはありません。
無理のない範囲で興味のあるイベントにご参加ください。
まずは登録だけでもよろしくお願いします！



<各部・委員会からの報告>

厚生部より

厚生部では会員の皆様の福利厚生で、ご結婚の際にカタログギフトを贈呈しています。

※結婚届を申請する場合は、連絡のとれる電話番号の記載をお願いしています。

何らかの確認でお電話を差し上げることがありますので、必ず連絡のとれる番号をご記入願います。058 - 276 - 7755 から番号通知しておかけします。ご協力をお願い致します。

厚生部では、下記の内容を実施しております。

- 1) 災害見舞金 会長の判断による。
- 2) 結婚のお祝い 会員の結婚に際しお祝いの品(カタログギフト)を贈る。
(本人または他会員の申請による)
- 3) 弔電 会員の両親、配偶者、子供死亡の場合に弔電。
会員外は会長が認めた場合。
- 4) 供花 会員本人に不幸があった場合、供花を供える。
- 5) イベント助成 会員有志によるスポーツ大会などの助成。
企画型) フットサル等 多人数で行う競技の助成
参加型) マラソン等 個人競技

上記以外にもご意見・要望、不明な点がございましたらご連絡ください。

連絡先

〒500 - 8288

岐阜県岐阜市中鶯2丁目99番地

TEL 058 - 276 - 7755 FAX 058 - 276 - 7733

介護老人保健施設 喜の里

名和 敏晃

調査部より

令和4年度 調査部アンケートのご協力について

調査部では毎年恒例の「会員属性調査」をアンケート実施いたします。今年は紙面での実施を見直し、新たに「Google フォームを用いた電子アンケート」の形で実施します。皆様の声をお聞きし、組織の状況を把握することで、本会の事業運営に反映したいと思っております。たいへんお手数ですがご協力をお願いいたします。

【アンケートの回答方法】

1. 下記 QR コードを読み込み Google フォームのアンケート入力画面を開きます。
2. 必要箇所にチェックを入れ設問にお答えいただきます。
3. 自由記載欄は簡潔に記載をお願いします。
4. アンケート内容
 - (1) 会員属性調査
 - (2) 会員意向調査 (IT 化についての調査)
 - (3) 政治参加特別委員会からの調査
5. 全設問 17 問 所要時間 約 12 分

【アンケート実施期間】

2022 年 10 月中旬～ 12 月下旬 12/31 終了
※らいちょう以外にもご案内を公開しております。重複回答にご注意ください。

【結果の公開について】

- ・アンケートの集計結果は、次号の広報誌「らいちょう」に掲載させていただくほか、ホームページや学会の報告など情報開示の資料とさせていただきます。
- ・この調査により知り得た会員の個人情報については厳正に保護いたします。



地域職域連携推進部より

キッズタウンぎふ 2022 活動報告

令和4年8月27日（土）28日（日）の2日間にかけて、岐阜新聞社主催の子どものお仕事体験イベント「キッズタウンぎふ 2022」に参加してきました。



イベントでは、年長～小学6年生までの児童を対象に、いろいろな仕事の体験ができる場として岐阜県理学療法士会は2年前より参加しております。イベントの内容としては、理学療法士から子ども達にマッサージのポイントを伝授してから、子ども用ケーシーを着用してもらい、理学療法士になりきって両親に向けた肩のマッサージを実際に行いました。実施後には肩もみ券をお土産としてお渡ししました。次に障がい者スポーツ車椅子（バスケット、テニス）の乗車体験とパラリンピック公式種目のポッチャの体験も行いました。



今回のイベントでは総勢 173 名の子ども達に参加してもらい、「理学療法士ってこんなことも出来るんだね」「家でお父さんにもやってあげる」「ポッチャはとっても楽しかった」などの発言もあり、とても盛況のあったイベントでした。イベントを通して子ども達だけではなく、理学療法士同士の交流の場にもなり顔の見える関係作りもできた貴重な時間になりました。

職能局 地域職域連携推進部

今井 優利



ジャパン・ライジング・ スター・プロジェクトの 活動報告

久美愛厚生病院
宮下 将一

7月30日、岐阜市で開催されたジャパン・ライジング・スター・プロジェクト（以下、J-STAR プロジェクト）に参加してきました。

聞き慣れないプロジェクトですが、「パラリンピック競技における将来性豊かなアスリートを全国で発掘すること」つまり、各競技に適した有望な人材を見出し、各競技団体の強化育成コースに導くためのプロジェクトです。日本パラスポーツ協会が主催し、スポーツ庁やパラリンピックの各競技団体等が協力して開催されております。

今回は中部・東海ブロックの基礎測定会であり、参加者は24名（車いす、視覚障がい、知的障がい）でした。

私は、四肢の形態測定・垂直跳び・ボール投げの測定を担当しました。測定時間も余裕があり、参加者と会話する機会も多くありました。会場の雰囲気は非常に柔らかく、参加者・スタッフともに笑顔で話されているのが印象的でした。

昼食は、ウエイトリフティングに携わってみえる障がい者スポーツトレーナーの方とご一緒させて頂きました。「パラリンピックは様々な障がいの選手がいる。PTだから関われるし、PTだから力になれる」という言葉が忘れられません。

コロナ禍ではありましたが、感染対策をした上で様々な立場、職種の方と関わった事、J-STAR プロジェクトの現場を体験できた事は私にとって非常に大きな経験となりました。

今回の基礎測定会にエントリーされた方の健闘をお祈りし、私自身も日々精進していきます。

簡単ではありますが、J-STAR プロジェクトの活動報告とします。

最後までご覧いただきありがとうございました。

ジャパン・ライジング・ スター・プロジェクトの 活動報告

飛騨うりす苑診療所
理学療法士
山本 将

今回の測定会は、未来のパラリンピック選手、アスリート候補者のためのスポーツテストを我々理学療法士や障がい者スポーツ指導員等の方が行うという活動でした。

二階建ての体育館を広く使い行われ、私は一階フロアにてボール投げ、立ち幅跳び、身体測定などを実施させて頂きました。

各フロアには当日の測定会を観察してスカウトを行う競技団体やメディアが配置され、岐阜で行われる障がい者スポーツの活動としては大規模なものに感じられました。

今回の測定会では上下肢長の計測、立ち幅跳びの計測を主に担当させて頂きました。

計測自体は普段の仕事と一緒にでしたが、周りのメディアのカメラやスカウトマンが選手を常に観察している為、独特の緊張感がありました。

選手が緊張でパフォーマンスが低下することが無いよう盛り上げるように現場スタッフからお話があったので、測定の他に声かけなどを行うよう心がけました。

また、測定員として一緒に働いた障がい者スポーツの指導員やトレーナーの方々は幅広く活動されている方が多く、他職種の方の障がいに対する向き合い方を知ることが出来て、勉強になりました。

準備時間、本番と、とても楽しい時間が過ごせたので、同じような活動があればまた積極的に参加していきたいと思いました。



職能局の紹介



診療報酬対策部

診療報酬に関する情報などを会員の皆様と情報共有します。 田島 嘉人：平成医療短期大学

障がい福祉・介護保険対策部

昨年までは介護保険分野における制度の解釈や相談事業、関連会議やイベントなどへの参加を中心に活動させて頂いておりましたが、今年度より障がい福祉分野の活動もさせて頂く事となりました。医療・福祉・介護・予防など理学療法士の関わる職域もどんどん増えて来ていますが、障がい福祉分野への関心や制度の理解などとても遅れているように感じます。

障がい福祉分野には大きな柱として、小児（肢体不自由・知的障害）・障害者（成人）・精神・発達障害があり、かなり広い領域となっており、医療保険や介護保険の狭間の一部でもあります。介護保険では居宅介護支援専門員（ケアマネ）さんがサービス計画を作成しているのに対し、障がい福祉分野では相談支援専門員さんが事業所利用の計画を作成されています。

当県士会では当面の目標として県内の障がい福祉事務所に対する派遣事業が行えないか模索することとし、そのための人材育成・研修会の開催、相談支援専門員さんや各種事業所への啓蒙活動、障がい福祉事業所に関わっている県士会員さんから当分野の動向把握を行うなどを計画しております。

当分野に関する制度の解釈や知識など、至らない点多々あるかと思いますが、何卒よろしくお願い致します。

馬場 隆幸：訪問看護ステーションほのぼ

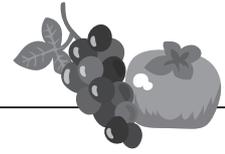
メディカルサポート部



メディカルサポート部では、野球肘検診やマラソン救護サポート、障がい者競技のサポートなど、地域のスポーツ支援を中心に活動しております。ねんりんぴっく岐阜の一部競技での競技サポートも予定しております。スポーツ支援に興味ある会員の皆様、ご協力をお待ちしております。

住若 克弥：羽島市民病院

人材育成サポート部



事業としては、(公社)日本理学療法士協会が現在、人材育成のための研修システムを構築し、各地域を基盤としている医療機関・介護保険関連施設・教育機関等に従事しているスタッフの協力体制強化を図っています。その中で人材育成サポート部が3つの事業を県士会にて実施しています。

①管理者指定研修 初級 (開催1回/年)

今後、部署の管理、チーム・班等の施設病院の小さな単位としても管理に従事する方、今後管理者を目指す(現在チーム等を統括する)方など、初級の研修があります。自薦他薦を問いません。詳しくはホームページで案内をしています。初級を取得することで、上級の取得も可能になりますので、奮ってご参加ください。(案内:理学療法士協会マイページ)

②職域別関係づくり研修会(管理者指定研修 職域別) (開催1回/年)

岐阜県内全域の急性期・回復期・地域包括・生活期の領域別に情報交換の場として、診療報酬や加算、コロナ対策等の情報を共有できるような関係性を作ることを目指しています。

③臨床実習指導者講習会 (開催3回~ /年)

臨床指導者講習会にて実習受け入れ態勢に必要でもあり、バイザーを行う上で、実習生に対して考慮する部分等、を学んでいただく研修会を年度内に複数回開催しています。今年度は3回開催し、総勢180名の参加がありました。

来年度以降も開催していきます。講習会への参加をお待ちしています。

今津統紀子:平野総合病院

地域職域連携推進部



地域職域連携推進部では、市町村、一般企業、学校保健の分野にて、一般の方々を対象に、『理学療法士の認知度向上』、『理学療法士の職域拡大』を目標に事業を行っています。

今年度を実施した事業として、イオンモール各務原との共催事業であるウォーキングイベントやSDGsのイベント、キッズタウンぎふ(こどもの職業体験)、岐阜ダイハツとの共同イベントなどを行ってきました。

イベントを通して、まだまだ理学療法士の認知度の低さを感じた半面、知識や情報を提供することで一般の方々の変化を垣間見ることができ、理学療法士の可能性やNeedsを感じました。

理学療法士は病院・施設内で仕事をするだけではもったいない! 更なる可能性を秘めている職種です!

例えば、一般の方々が『関節が痛いから理学療法士の先生のところに聴いてみよ』、『歩くとふらついて心配だから理学療法士の先生に見てもらいたい』という第一声が出る時代が来ればいいなと思います。

皆様のお力にて、今後の理学療法士の礎を一緒に築きませんか?

院外活動に興味のある方、また今後関わってみたいと思う方が見えたら、まずは見学からでも構いません。人材バンクへのご登録のほど宜しくお願い致します。

富田 純也:近石病院

< 会 員 の 声 >

岐阜県理学療法学会学術集会に参加して

岐阜地域児童発達支援センター
ポッポの家

堀 江 文 香

私は理学療法士になり、今年で3年目になりました。当施設は主に生後3ヵ月～6歳までの脳性麻痺児や染色体異常、運動発達に遅れがある児を対象としてリハビリテーションを行っています。毎日、可愛い子どもたちの成長を見届ける事ができ、喜びを感じています。

私は、職場の先輩に「研究をしてみたらどうか」と声を掛けて頂いた事がきっかけで、去年の4月から動き始めました。研究については、学生時代に授業で触れた程度でしたので、右も左も分からない状況でした。しかし、母校の先生方にも協力して頂き、約1年間研究活動を行う事ができました。様々な事に追われ、あっという間に過ぎましたが、とても充実していた1年間でした。

私が就職した頃は、日本でも新型コロナウイルスが流行しはじめた時でした。この3年間、様々な学会や研修は全てオンラインでの参加しか経験がありません。そのため、今回の学術集会が初めてのオフラインでの参加でした。学術集会はどんな雰囲気なのか、当日はどのように動けばいいのか、何名の方が参加するのか全く分からない状況でした。1週間前から落ち着かず、夜もあまり眠れなかったのを覚えています。当日は緊張して一瞬の出来事でしたが、会場の緊張感やステージからみた景色、表彰された時の気持ち、お昼に食べたご飯の味までも、今でも鮮明に思い出せる程、私にとって刺激的な1日でした。初めは「形になればいいかな」と思い始めた研究でしたが、最優秀賞をいただく事ができ、達成感と喜びを感じる事ができました。それだけではなく、学生時代の懐かしい友人や先生方に3年ぶりに会えたこと、また、今まで挨拶をする機会すらなかった、小児理学療法をしている先生方と交流ができたことがとても嬉しかったです。オフラインならではのよさを3年目にしてやっと感じる事ができました。学術集会を運営してくださった、長谷部会長をはじめ、準備委員の皆様がオフラインにこだわって開催してくださったおかげです。このような貴重な経験をさせて頂いたことに、とても感謝し

ています。

今回、学術集会に参加した事で様々な知識をつけ、賞を頂いた事は自信にもなりました。この経験を糧として今後も更なる高みを目指し、子どもたちやご家族の皆様のために日々励んでいきたいと思いを

気づかされたこと

デイサービス・リハビリセンター わおん

土 屋 太 士

私は学生時代から介護、リハビリテーションの仕事に興味をもっていました。しかし、そのときは漠然とした気持ちで大学に進学し、一般企業へ就職しました。そこで3年ほど勤めましたが、やはり心残りがあり、仕事を退職し理学療法士の専門学校に入学しました。私は今年で理学療法士になって14年目になりました。はじめは、整形外科クリニックに勤め、そこで外来リハビリテーション業務、訪問リハビリテーション、通所リハビリテーションを経験しました。現在はデイサービスに移動して6年目を迎えています。

私の妻は新潟県出身です。義理の父は元々活発であり、歴史を愛し日本中の多くの史跡めぐりをよくしていました。ある時から腰を悪くし、手術を受けましたが数年後再発しました。その後2回の手術を行いました。次第にしびれや痛みが増し、歩くことができなくなり施設入所となりました。

新潟県は岐阜県から遠く、なかなか会いに行くことができなかった為、私達の家の近くの施設に転所しました。そこでは、新しく移った環境に戸惑うこともあったようですが、施設の温かいケアがあり、離床する時間や歩く機会が増え、徐々に歩くことができるようになりました。その姿を見て思うことがあったのでしょうか、妻は涙していました。

私はデイサービスでリハビリをしています。新しい利用者様がリハビリを始めて少しずつ動けるようになり、歩けるようになることは、日常の風景となっています。本人様やご家族様が喜ばれる姿は多く見てきましたが、妻が感極まった姿を見て驚きました。その涙には家族に対する不安や積る思いもあったのだと思います。そして、私が理学療法士になる前のことを思い出しました。生前、祖母が大病を患い入院し、徐々に弱っていく姿を見て、とても不安になりました。その時に支えてくださったのが

医師や看護師、介護士、リハビリスタッフでした。その存在が心強く感じました。

私は利用者様家族の思いを理解しているつもりでしたが、いつかその時の気持ちを忘れていたのだと思います。そして、妻の姿を通してその気持ちを思い出しました。

これからは利用者様家族の気持ちをもっと大事にしながかりハビリ業務に従事していきたいと思います。

周りに支えられて

大垣徳洲会病院

加藤 愛美

私が理学療法士を目指して大学に通っていた頃、祖母が脳卒中で倒れ 10 時間にも及ぶ手術をしました。祖母は料理も好き、食べることも好きで、「あみちゃん！！ご飯できたよー！」といつも言っていました。その日を境にベッド上中心の生活となり、大好きなご飯も自分で食べられなくなりました。その後、当院に転院し、久しぶりに面会することになったのですが、「まだベッドの上で動けないんだろうな。」と思いながら祖母を探していると、歩行器を使って廊下をのそのそと歩き「あら、あみちゃん。来てくれたの！」と話す祖母を見つけました（笑）。

それが初めて当院に足を踏み入れた瞬間であり、当院をもっと知りたいと思うきっかけになりました。そして、ご縁があって当院の実習生となり、その後就職させて頂きました。

あれから 6 年が経過し、置かれる立場は変わり、見える景色も大きく変わりました。当時、仲良くなれるのかな？と思った同期は肩を組めるほど仲良くなり、相談できる上司と優秀な後輩に恵まれ、毎日があっという間に過ぎてしまいます。そんな毎日を振り返ってみると、いつも周りに支えられてきた 6 年だったなあと感じます。

私の話ばかりになってしまいますが、私は元々挑戦することが苦手でした。加えて理学療法士として 5 年以上も経ち、自分の中で少し仕事が落ち着いてきた気がして、毎日このまま平凡にと感じていました。そんな時に、チームをまとめる立場になってみないかとお声を頂き、挑戦することが苦手な私は迷いましたが、上司の方や同期に背中を押してもらい不安ながらもやってみることにしました。すると、チームをまとめていく中で周りを見る視野が広が

り、もっと患者さんに還元できるような事をしてみよう！と新たなことにも挑戦したいと思うようになりました。やはり挑戦したことで辛いこともありましたが、いつも私が辛いと思う度に声をかけて頂き、挑戦して良かったと思える環境を作ってくださった上司の方々や支えてくれる同期、後輩がいたことでポジティブな結果になったと実感しています。そしてチームをまとめる中で、良い仕事はやはり仲良くないとできないなあと感じます。というのは、仕事仲間というのは実際には家族よりも長い時間を過ごしているわけで、仲が悪いと 1 日辛い日を送るだけで、工夫してみよう、挑戦してみようといった感情が出にくいと思うからです。そのため、お互いに声を傾け合い、働く中で違った意見が出ても真っ向から否定せず、意見を擦り合わせて行くことが大切なのではないかと思いつつ日々臨床やチーム管理の仕事させて頂いています。これからも、お互いに高め合える方達と一緒に働ける事を誇りに思い日々を過ごしていきたいです。

介護を行う理学療法士

各務原リハビリテーション病院

— 佛 佳 世

私達の病棟ではアドバンスリハという取り組みを行っており、リハビリ職もケア業務に介入しています。勤務形態には日勤も夜勤もあります。夜勤？と思われることが多いですが、夜はケア業務に従事しています。

入職時はリハビリ業務にしか携わっていませんでしたが年々働き方が変わり、今ではリハビリ職がケア業務や夜勤を行うことが普通の光景になりました。仕事内容は食事・入浴・排泄介助等、介護士同様の業務です。ケア業務への介入が始まった頃、「どうしてケア業務をやらなければいけないのだろう」と疑問を抱いていました。実際の現場での姿は、自分が思い描いていた理学療法士の姿とは全然違うものでしたから。もともと福祉関係の勉強をしていたこともありケア業務への抵抗はなかったものの、私は介護をしたくて理学療法士になったわけではありません。そんな葛藤を抱きながらも、早数年。現在も理学療法士として働きながらケア業務にも介入しています。

リハビリ職がケア業務に介入するメリットは、介

助者の視点に立つことができる場所です。介助者からの視点でもリハビリについて考える機会が増えました。可動域が改善したり、ADLが向上することは患者様へのメリットだけでなく、介助者の負担を軽減させることにも繋がります。自分達が実際にケア業務に介入しているため、家族への指導も細かいところまで伝えられるようになりました。さらに、ケア業務に従事する時間は情報収集の時間にもなります。例えば食事介助では食形態や嚥下機能、栄養状態について知ることができます。入浴や排泄介助では全身の皮膚状態を観察することができ、実生活の中で動作観察を行うことでリハビリにも活かすことができるのです。また日中のみならず、夜間の様子を自分の目で見て知ることができるのは夜勤をやる人の特権だと感じます。

働くということは大変です。対人の仕事ということもあり上手くいかないことも多くありますが、そんな時は先輩の話思い出します。『今の生活に自分はどのくらい満足していますか』と。“グラスタワーをイメージして、1番上は自分。2段目に家族や友人。3段目に周りの人。1番上の自分が満たされていなければ、他の人を満たすことはできません”との内容でした。対人の仕事である私達は周りの人のことも考えて行動しなければなりません。でも自分を満たしてあげることで気持ちに余裕をもつことができ、周りの人にもっと優しくなれるのであれば自分を優先してあげることも大切だと思います。

私の周りには憧れの先輩や自然体でいられる友人達の存在があります。自分らしくあるためにも大切な人達と過ごす時間、リフレッシュする時間を大切にしながら、これからも頑張っていきたいと思います。

人は何をもって幸せとするか

社会福祉法人 飛騨慈光会
障害者支援施設 飛騨うりす苑
理学療法士 山本 将

飛騨高山の国府町瓜巣（うりす）という変わった名前の地で勤め始めて4年目になりました。高山は寒すぎて、気温にはまだ慣れませんが見渡す限り自然が溢れており、あまり創造性がない私でも、何

かが掻き立てられるような気がします。

今、私の勤務している障害者支援施設という場所では様々な障害を抱えた方が生活しています。理学療法士が働く場所としては少しマイナーなイメージがあるかもしれませんが。こういった施設では、理学療法士としてというよりも、一人の人間としてどのように対象者と関わるかが大切だと実感しています。

身体障害を持つ方は、普段から心配事や不安を抱えている事が多いです。本人にとって不安を取り除くこととは何か、また、楽しいと思うことや幸せに思うことはなにかを考え訓練や生活に反映させていく必要があります。

人にとっての幸せを考える中で、私はいつもアランの「幸福論」を思い出します。本作中ではアランという人間が考える、人が幸せになる為の方法が書き綴られています。偏った解釈だなどと思う文章もありますが、為になることもあり、個人的には好きな作品です。作中で「人間というものはもともとネガティブな生き物であり、自然に生きているだけでは不幸な気分になっていく」という内容が出てきます。面白いですね。しかしアランはその後こう述べています。「気分というもの正確に言えば、いつも悪いものなのだ。だから、幸福とはすべて、意志と統御によるものなのである。」アランにとっての幸福とは、自身の思考の切替え、意志で行動を変えていく、簡単に言うとポジティブシンキングの元に訪れるものという考えだと解釈できます。さらに作中では、具体例を交えつつ幸福になりたいなら努力をなささいという文が度々出てきており、私自身アランから文章を通じて鼓舞されることも多くありました。

哲学書の言葉を借りてお話してきましたが、人にとっての幸せは人それぞれ違うものです。患者様・利用者様にとってそれは、私たちが日々当たり前に行っている近くのスーパーへの買い物や、晩ご飯をおいしく食べられることかもしれません。その人達にとっての幸せに寄り添い、それを叶えるための行動・思考を指し示すことが、私たちが働いている意味であると日々思います。

皆様にとっての幸せは何でしょうか？

令和4年度 賛助会員

会社名・施設名	電話番号
有限会社 加納ビジネス 〒 500-8456 岐阜県岐阜市加納大黒町 2-32	TEL 058-273-3007(代)
有限会社 中部義肢 〒 486-0911 愛知県春日井市西高山町 3 丁目 16-12	TEL 0568-34-7143
岐阜保健大学 〒 500-8281 岐阜県岐阜市東鶉 2 丁目 92 番地	TEL 058-274-5001
東名ブレース株式会社 〒 489-0979 愛知県瀬戸市坊金町 271	TEL 0561-85-7355
株式会社 松本義肢製作所 〒 485-0805 愛知県小牧市大字林 210-3	TEL 0568-47-1701
学校法人誠広学園 平成医療短期大学 〒 501-1131 岐阜県岐阜市黒野 180	TEL 058-234-3324
中部学院大学 〒 501-3993 岐阜県関市桐ヶ丘 2 丁目 1 番地	TEL 0575-24-2211
株式会社 ケア 〒 502-0848 岐阜県岐阜市早田本町 1 丁目 9 番地	TEL 058-233-7981
株式会社 大塚製薬工場 〒 500-8856 岐阜県岐阜市橋本町 2-20 濃飛ビル 9 階	TEL 058-227-3811
株式会社 gene 〒 461-0004 愛知県名古屋市東区葵 1 丁目 26 番地 12 号 IKKO 新栄ビル 6F	TEL 052-325-6611
株式会社 Lee 製作室 〒 910-0374 福井県坂井市丸岡町北横地 40-9	TEL 0776-50-1105
有限会社 であい工房 〒 738-0034 広島県廿日市市宮内 3300	TEL 0829-39-0041

編集後記

元気ですか？

いつもは患者さんや利用者さんなどにお聞きしている言葉ですが、理学療法士の皆さんは元気ですか。最近、まだまだ続くコロナウイルスの脅威、円安傾向による物価高の高騰などで日本の活気がどんどん減っていると思いませんか。

この今の日本を少しでも私は理学療法士として盛り上げたいと思っています。

その前に、私達が元気でないとはいけませんね。今回は会員の皆さんに私の尊敬するアントニオ猪木さんの言葉をお借りして元気を届けたいと思います。

「この道を行けばどうなるものか、危ぶむなかれ。危ぶめば道はなし。踏み出せばその一足が道となり、その一足が道となる。迷わず行けよ。行けばわかるさ。」

皆さんで元気を届けていきましょう。

(Y. A)

広告掲載のご案内

士会ニュース広告掲載のお問い合わせ・申し込みにつきましては
広報部までお願いいたします。

広報部

〒502-0812 岐阜市八代 1-7-1

岩砂病院・岩砂マタニティ

TEL : 058-231-2631 FAX : 058-294-1480

E-mail : gptakouhou@gmail.com

2022. 11. 20

発行人：公益社団法人 岐阜県理学療法士会

会長 村 雲 憲

事務局：〒500-8384 岐阜市藪田南1丁目11番12号

岐阜水産会館 4B-4号室

TEL・FAX (058) 277 - 6166

編 集：矢代真也

印刷所：(有)いすくら